

平成 21 年度研究チーム活動中間報告（第 1 回目）

「アジア地域における“持続可能な未来”のための環境教育学」

No.113 研究幹事：谷口文章（文学部）

2009 年度は、次のように、研究会および合同研究会を開催しました。テーマのキーワードから研究会の内容を紹介致します。まず、「アジア地域」に関しては、Think globally, act locally といわれるように国際的に持続可能な未来を構築するために、中国、ネパール、タイ、台湾、マレーシアから研究者を招待するか、当方から各国の大学に出向きました。研究会やディスカッションの結果、明らかになったことは各国によって環境の事情が相違しますので、持続可能なガイドラインを方向づける環境教育学が不可欠なことを確認しました。

そして「持続可能」な未来の実現のためには、環境倫理学にもとづいた環境教育の実践も大切であり、アジア地域の環境教育の実態を調査しました。またアジア地域の持続可能な未来、環境教育学の確立、環境教育の実践を貫く大切な結び目は、ライフスタイルの変更であり、さらに、常識的なことと思われる衣食住のエコロジーの原点を探ることでした。つまり、「衣」（服育）、「食」（食育）、「住」（住育）という各国の生活基盤を知り、環境教育にそれらに特有な伝承・継承・文化をシステムティックに導入することです。

今年度以降は、国際的（グローバルな）視点から地域的（ローカルな）実践のモデル・プログラム作成がテーマになります。

2009 年 4 月 1 日 チナタ・ナガシンハ氏（タイ・プラナコン大学）来日。研究会と今後の計画を検討。

2009 年 7 月 24 日 日本環境教育学会 20 回大会（東京農工大学）学会プロジェクト研究にて中間報告

谷口文章「アジア・エリアにおける『持続可能な未来』のための環境教育とネットワークの構築」、シュレスタ M.L.氏「ネパールにおける環境の現状と衣食住をめぐる環境教育」、清水芳久氏（京都大学）「アジア地域における、人間の排泄物を有機肥料にするための『トイレの開発と普及』」、前田良治氏（株）チクマ「持続可能な社会のための『服育』」

2009 年 10 月 16 日 服育研究会（産学共同プロジェクト）と合同研究会

有吉直美氏（株）チクマ「環境教育における『服育』の可能性」

2009 年 10 月 27 日 林其昂氏, NCCU 国立政治大学「J. S. Mill's Stationary State and Concepts of Sustainable Development」；岡田元治氏「Shozo Tanaka: Great Pioneer of Japan's Anti-pollution and Environmental Movement」



日本環境教育学会大会 20 回大会
「学会プロジェクト研究」
於：東京農工大学



Keynote lecture Prof. Brian Chi-ang Lin
林其昂教授
於：甲南大学

2009年11月13日 ミーティング『『服育』と環境教育プログラム』の具体化

2009年11月26～27日 アジザン・バハルディン氏（マレーシア・マラヤ大学）Centre for Civilisational Dialogue, University of Malaya “Science, Religions & Bioethics: A Traditional Response to Modern Science (Biotechnology)”

2009年12月20日 第18回関西支部大会・中間報告（泉大津）谷口文章・有吉直美氏「アジア・エリアにおける環境教育の展－服育を中心に－」

2010年1月27日 総研－服育合同研究会（甲南大学）
「服育をどのように環境教育に展開するか」



Science, Religions & Bioethics
アジザン・バハルディン教授
於：甲南大学